

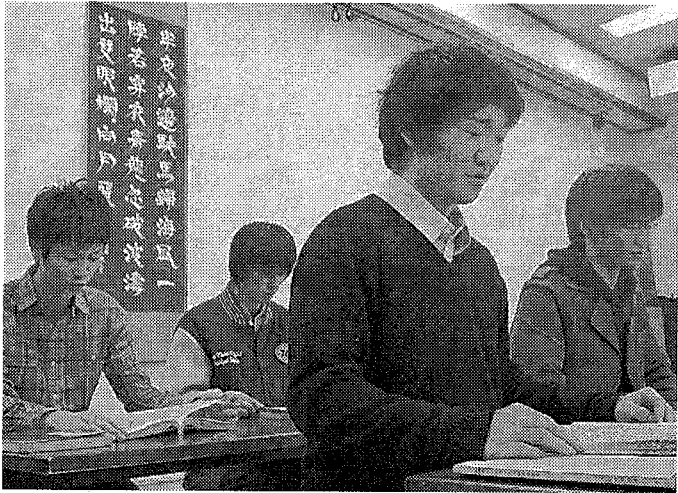
大学

究める

煙籠幽樹午寒侵(ひむり はゆうじゆをこめ ごかん おかす)
 翻閱古書閑撫琴(こしよ をほんえつし かにきん をぶす)
 漢詩研究会の柏キャンパス代表の早川太基さん(20)の作品の一部。山荘の静けさをうたったが、「実際に寂しい山にこもったわけではありません」。二松学舎大主催の漢詩コンクールで最優秀賞に輝いた。週1鑑賞も創作もする。週1

二松学舎大 「漢詩研究会」

回、古典などを読む「素読」では、1人が読んだ後をほかの人が復唱。「たぐわんに味がしみていくように」、自らを漢詩づけにするのだという。年2回の合



素読に取り組む二松学舎大漢詩研究会のメンバー＝千葉県柏市で

宿では、互いの作品を評価し合う。「きれいな夕暮れをよんでいたら、最初の感動より深みが増してきた」と井上功太郎さん(20)。昨秋の学園祭に合わせ、

書道部との協力が実現。早川さんの作品が金色の文字の立派な掛け物になった。部員はいま6人。仲間を増やすためにも、漢詩の魅力をもっと広めたい。早川さんは語る。「いかに生きるべきか真摯に問いつめてきた歴史、その一員に加わっていく喜びがある。虫の声を聞いて、1500年前の人と同じ気分になれるんです」(片山健志)

鑑賞、創作味わい尽くす

メモ 漢学塾の伝統を受け継ぐと83年に発足。漢詩は韻律の規則を覚え、四季などで分類された「詩語表」の熟語を当てはめれば意外と簡単に作れるという。「これ、という熟語を『詩語表』で見つけ出すのがだいご味」とメンバーの渡辺裕馬さん(20)。

キャッチーなコピーで、学生つかめ

企業ながらにキャッチフレーズを作る大学が増えている。その多くは他大学に比べて優位な点や特徴、目指す方向をひとことで示すことにより受験生や父母らに浸透を図る。「10R」(プラス)

大学の主なキャッチフレーズやスローガン

聖学院大	面倒見のよい大学・入って伸びる大学
独協大	進化する、語学の獨協。
成蹊大	個性を持った自立的な人間の創造
東京経済大	Forward Forever!
日本大	自主創造 あなたとともに100万人の仲間とともに
武蔵大	触れて温かい都市型大学
明治大	「個」を強くする大学
明星大	好きなことで、一番になろう。
金城学院大	強く、優しく。
西南学院大	福岡から全国へ、世界へ、はばたく力を。

謎解き風・テーマを英訳…受験世代の浸透狙う

1ル)は、立命館で学ぶことの価値を学生一人ひとりにプラスし、成長を促す意味を込めたという。広報課は「日本を担う人材にはいま、時代の先を読み取る洞察力や未来を切り開く行動力が必要。キャッチフレーズはそんなたくましい学生を育てるという社会への約束だ」と説明する。

謎解きのような表現で目を引くのは、二松学舎大も同様だ。今年度、創立130周年記念の戦略として「2」の大学「二松学舎」というキャッチフレーズを作り、首都圏の駅や電車内に広告を出した。今ある私大で2番目に古い、2本の松に由来する、学部もキャンパスも二つ。「2」にまつわるエピソードもホームページで紹介する。

語尾に句点。「」を付けるケースが目立つ。「ない場合と比べ、締めりが出て、意志の強さを感じる」と説明する中央大もその一つ。「行動する知性。」を昨年春からホームページなどで使っている。学生らへの調査で、同大のイメージは「実学重視」「結果を出す」と受け止められていたといい、「調査を元にポジティブな姿勢を打ち出した」と広報室。

横文字派もある。京都産業大のスローガンは「POWER POINT」だ。元々「自由だが鍛えられる大学」「厳しさが成長できる大学」を掲げていたが、もっと端的で、一般に浸透しやすいものを、と作った。

慶応大の「Design the Future」は、今年の創立50周年に関連した記念事業や印刷物限定の表現だ。記念事業の基本テーマ「未来への先導」の英訳で、創始者・福沢諭吉の「全社会的先導者たるんことを欲するものなり」の言葉を基にした。

国立大も例外ではない。九州大は11年の100周年を記念し、「知の新世紀を拓く」というスローガンを作った。(片山健志)